学校だより

磨光

令和６年 10 月 28 日(月)
三豊市立本山小学校
No.15
発行者：中田　祐二

まだ文字も読めない小さな子どもを膝に乗せ、絵本を読み聞かせていると、子どもがページをめくりたがることがあります。お話の続きを知りたいのか、それとも自分のお気に入りの場面に早くたどり着きたいのか。いずれにしても、読み聞かせには、絵や言葉や声のぬくもりで本の世界に誘う魅力があります。

読み聞かせ　～思いの行き来～

私が小学生のころ、母に『ドラえもん』の漫画の読み聞かせをねだったことがありました。もちろん自分で読もうと思えば読めます。それでも読んでもらっていたのは、のび太がドジをする場面や、面白い台詞のコマが近づくと（来たぞ、来たぞ。お母さんはきっと笑うぞ。）とわくわくする時間が楽しかったからです。読み聞かせは、私が母に『ドラえもん』の面白さを伝える時間でもありました。

10 月 24 日のブログで、読書タイムでの読み聞かせを紹介しました。１年生は６年生に、２年生は４年生に、３年生は５年生に、自分の好きな本を読んでもらいました。読み聞かせは上級生から下級生へ。でも、本を読んでもらいながら、下級生は（ぼくは、ここの場面が好きなんだ。上級生の〇〇さんも好きになってくれるかなあ。）と、上級生に本を伝えているのかもしれません。「面白かったよ。」と上級生が思い、「面白かったでしょ。」と下級生が思う。この読み聞かせは、そんな時間でもあったのではないでしょうか。

10/24 ブログ↓

【１年生と６年生】

【２年生と４年生】

【３年生と５年生】

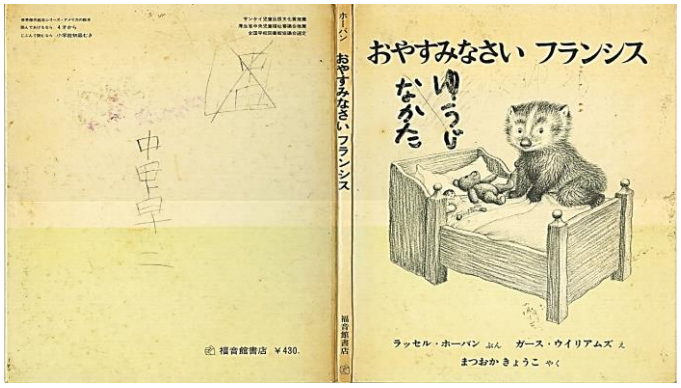
いつの日か「忘れられない一冊」に

10 月 22 日の全校朝会で『おやすみなさい フランシス』という絵本の紹介をしました。50 年以上も前、私が子どもの時に大好きだった絵本です。そして、あまりに好きすぎて、１歳年上の兄と、「この本は、ぼくの本や！」と取りあった本です。表紙や背表紙にそれぞれが名前を書いて自分の本だと主張し、折り合いがつかずに相手の名前をぐちゃぐちゃに消しながらけんかをしたものでした。

思い出の本というものは、その内容もさることながら、いつ読んだか、だれと読んだか、どんな状況で読んだかということも大きく影響します。そして、どの本が思い出の一冊になるかは、きっと、ずっと後になるまで分かりません。

どの本との出会いが大事になるのかは、だれにも分かりません。だからこそ、一冊一冊の本との出会いを大事にしてほしいと思います。

27 日から読書週間。今年の標語は「この一行に逢いにきた」。心に残る一冊、素敵な一行に出会えますように。



【ラッセル・ホーバン 文／ガース・ウイリアムズ絵『おやすみなさい フランシス』（福音館書店）】